

あなたの本との出会いをお手伝い……図書館便り

BOOK

NO. 15

BOOK は図書館のワクワクを皆さんにお伝えするメディアです。皆さんが図書館に感じるワクワクも教えて下さい。知らない人に教えてあげましょう。

2014年8月20日発行 / 隔月刊
発行 & 編集 = 山形村図書館

お話を届ける

「お話は、おとなが子どもにおくることのできる、いちばんいのちの長い贈りもの」

東京子ども図書館
松岡亨子さんのことばから

松本おはなしの会の谷口和恵さんを講師に、
耳で楽しむおはなし「語り」講座を開催しました。
3回講座に、16人が参加してくれました。

まずは、谷口さんの語りを実際に体験してみました。

耳だけで聞くお話は、聞き漏らすまいと集中するので、おはなしの世界にぐぐっと入り込みます。自

由にイメージが広がるので、物語が生き生きと動き出します。本を介さないぶん、語り手のまなざしがかに聞き手に届き、とても親密な

関係になるのも心地よいです。語り手と聞き手が一緒に

芽がでて、ふくらんで、 花が咲く「語り」

「場」を作るのですね。こんなに魅力的な「語り」なのになかなか語り手がいません。



囲炉裏端のおばあちゃんのように、湧き出るようにお話を語れる人はすでに無く、これから「語り」をやるうという

人は、まずお話を覚えなくてはいけない。記憶力抜群の若者ならともかく、読んでも読んでも定着せず、一晩寝るとふりだしへ、を繰り返す。熟年が越えるには、高いハードルです（そんなことはない。ほんのみずすたまりよと講師はおっしゃいますが……）

おれにはアメリカの歌声が聴こえる、いろいろな讃歌がおれには聴こえる、機械工たちの歌、誰もが自分の歌を快活で力強く響けとはかり歌っている、大工は大工の歌を歌う、板や梁の長さをはかりながら、

「誰でも初めてのときはあつたのよ」と励まされ「脳トレ！脳トレ！」とわが身を叱咤しています。今回は語り入門編ということで、物を使った語りも教えていただきました。これなら初心者にもなんとか手がだせそう。

石工は石工の歌を歌う、仕事へ向かうまえも仕事を終わらせたあと、船頭は自分の歌を歌い、甲板員は蒸気船の甲板で歌う、靴屋はベンチに座りながら歌い、帽子屋は立ったまま歌う、

「たくさん覚えなくていい。ひとつかふたつ覚えたお話を大事に育てていけばね。育てるには、何度も語ってみること。誠実な語りはちゃんと子どもに届くから」と背中を押してもらい、それならば、と勇気を得た面々です。

木こりの歌、農夫の歌、朝仕事に向うときも、昼休みにも、夕暮れにも、母親の、仕事をやる若妻の、針仕事や洗濯をする少女の心地よい歌、誰もが自分だけの歌を歌っている、

最終回には何人も「語り」にチャレンジしてくれました。いつか子どもたちに届くことを期待しましょう。

昼は昼の歌を歌う——夜は屈強で

心に残る詩

須永恵次選 図書館を愛する会

今回は「アメリカ合衆国そのものが、実質的にもっとも偉大な詩だ」と公言するホイットマンを紹介しています。ホイットマンはいわばストリート系の詩人。街を歩き、人と接し、そこから詩がうまれた。

おれにはアメリカの歌声が聴こえる
ホイットマン（飯野友幸訳）



トウヴェ・ヤンソン生誕100周年記念
大人も子どもも大好きな
ムーミンの世界

「ねえ、ムーミン、こっちむいて」

アニメにもなつて日本人にもなじみの深いムーミンの世界。お気に入りのキャラクターがある人も多いのでは？

今年是世界中の人々に愛される「ムーミン」の作者トウヴェ・ヤンソンの生誕100年に当たります。

フィンランドに生まれたトウヴェは、彫刻家の父と売れっ子挿絵画家の母を持ち、絵画、マンガ、大人向けの小説まで、さまざまなジャンル

に才能発揮した芸術家です。

日本ではやっぱり「ムーミン」の知名度が高いですね。

『小さなトロールと大きな洪水』

『ムーミン谷の彗星』

『たのしいムーミン家』

『ムーミンバの思い出』

『ムーミン谷の夏祭り』

『ムーミンバの冬』

『ムーミン谷の仲間たち』

『ムーミンバ海へ行く』

『ムーミン谷の十月』の全9作。

北欧の夏至祭りや、冬の情景が楽しめたり、ムーミンの成長を感じたり、それぞれの作品に味わいがあります。ムーミンたちと出会えたことで、傷つ

いた心が回復していく…、大人になつていよいよその奥深さを堪能できます。

今年はい00年のお祝いに、トウヴェやムーミン関連の本がたくさん出版されています。ぜひこの機会に手に取つてみてください。



「ほつとたいむ」



ラクガキ屋Marioru (イラストレーター村内在住)

私だつて、みずたまり越えてやる…⑥

気のいい若者たちが大声で美しい歌を力強く歌う。

「おれにはアメリカの歌声が聴こえる『草の葉』」から

最近、図書館で出会ったこの本は、名古屋市近郊に暮す御年86歳と80歳(2011年当時)の、あるご夫婦の生活を綴った本でした。

広い畑の中に小さな丸太小屋を建て、お互いの得意なことを担当して、丁寧に暮すお二人。ペーカンまでおうちで作

私のこの一冊

百瀬貴子 図書館利用者



「あしたも、こはるびより」

つばた英子・つばたしゅういち

てしまつたんですよ！

「けんからしいけんかつたことないの。……小春日和が好きだから。」と語る奥さん。穏やかに仲良く暮らす知恵を持ち、季節のおいしいお料理を作り、楽しく整理整頓。こんな風に年を重ねたいなど思わせてくれる冊でした。

6・7月の貸出ベスト10

- 1位 白蓮れんれん / 林真理子
- 2位 女子の人間関係 / 水島広子
- 3位 ソナチネ / 小池真理子
- 4位 わたしのウチには、なんにもない / ゆるりまい
- 5位 祈りの幕が下りる時 / 東野圭吾
- 6位 嫌われる勇気 / 岸見一郎
- 7位 下戸は勘定に入れません / 西澤保彦
- 8位 母めしー汁三菜 / 大久保久江
- 9位 女のいない男たち / 村上春樹
- 10位 認知症より対応・悪い対応 / 浦上克也

イシカワのひとりごと

朝のNHK連続ドラマ『花子とアン』が人気です。『赤毛のアン』を翻訳した村岡花子がモデルです。

「村岡花子の書いた『たんぼほの目』ってありますか?」というおたずねがありました。うむ、戦前の出版で、すでに絶版。さてよ、こんな時こそ国立国会図書館のデジタルコレクションの出番では?…ありました。

村岡花子の童話集『たんぼほの目』を、図書館のパソコンで見えていただきました。

この本は、おうちのパソコンからでも見られます。当時の装丁そのままの雰囲気味わえます。新たな装丁の『たんぼほの目』も図書館に入りました。こちらもどうぞ。

◆今月の図書館川柳
迷推理 終わり確かめ
読み直す
川柳あららぎ 弘子

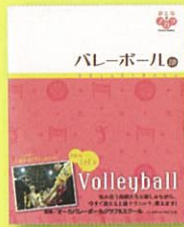
おねえさん、おすすめ新着本



「ホタルの歌」原田美
1960年代、徳島県の山奥の小さい小学校から生まれたホタル研究観客の1冊。探究するとはこういふことか!



「日本のもと」シリーズ
「憲法」「円」「神さま」など、子どもだけでなく大人も意外と知らないテーマが10冊。4コマ漫画も多くて、これがまたしゃれてます。



「バレーボール部」
山形村はバレー人口が多い? オトナの部活へ応援します。



「カモメのジョナサン」
リチャード・バック
1970年代のベストセラー。飛行機事故から生還した著者が、最終章を書き加えた「完成版」です。



「男が育休を取ってわかったこと」 池田志
育休を取った若き皮膚科医の奮闘と、育休中に得た子どもとのスキンケアのノウハウの2本立て。



「本屋さんのダイアナ」 柚木麻子
「大穴(ダイアナ)」という名を持つ少女の苦しみを支えるのは本と親友。現代の「赤毛のアン」という呼び声高し。

図書館からのお知らせ

山形村古文書同好会から「古文書学習録(通算第七巻)(続)」をいただきました。村に伝わる古文書を読み解き、古文書の原文と解説文で構成されています。古文書に親しむきっかけになればという思いで日々研鑽されている成果です。利用しやすいかたちで、村の財産です。

◆9月のお知らせ

〈製本講座〉

プロ直伝の本格的な製本を学びます。大人が対象です。宝物の1冊作りませんか?
●期日 9月6日(土) 10:00~12:30
●会場 ふるさと大ホール

●講師 (有)シンエーセイホン 鈴木 信さん

●定員 20人 *無料です。

10月の予告

「絵本であそぼ!」秋の企画

「まるごとどんぐり」(大滝玲子)より、どんぐり工作をします。日程は、決まり次第お知らせします。お楽しみに。